

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791700018		
法人名	有限会社 介護センターかな		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	沖縄県国頭郡宜野座村字漢那1953番地1		
自己評価作成日	令和4年11月6日	評価結果市町村受理日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791700018-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで静かな環境にある。入居者と職員が一緒になって笑い賑やかである。コロナ禍前までは、地域祭りや産業共進会見学、掲示物出品を行い、外出や外食等に応えられるよう努めていた。現在は事業所ないで、行事を開催し行食事を提供、自宅周辺へのドライブを持ち楽しめる様工夫をしている。近隣幼稚園、小学校からの友愛訪問、青年会のエイサー演舞、職員同好会の獅子舞や太鼓演舞も、コロナ感染状況を考慮しながら交流がある。出来るかぎり、住み慣れた地域から、離れることが無いよう支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症予防のため、外出の制限や家族との面会自粛等による利用者の心理的ストレス、孤独感の解消に配慮し、サービスの提供に取り組んでいる。自治会への加入がある中、地域の情報を収集し、コロナ感染症予防を行いながら個々のドライブやなじみの美容室に行く等、できる限り利用者の希望を叶えるように務めている。就業環境では職員個々の休みが取りやすく、日頃から社長自ら職員へ話しかけることでコミュニケーションが取りやすい就業環境を創ろうと務めている。又、資格取得のための講座への参加、昇給の相談、勤怠の調整、費用の負担も行っていることや外部への勉強会参加等にも力を入れていることから仕事へのやりがいがあるように心がけている。業務に関するマニュアルについては実践に合わせた内容になっており、誰が閲覧してもわかりやすい内容に工夫されていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに掲示され、採用時に説明を行っている。馴れ合いになっている事で、グループホームの提供するサービスに疑問を感じた時は、朝の申し送り時に職員へ理念の読み合せをし、目配り・気配り・心配りを意識して、寄り添うケアが出来る様努めている。	理念は開所当初に作成し、個々に合わせた関わりを念頭にいたケアと利用者を第一に考えた理念となっている。朝の申し送り時に理念の読み合せを行い、ケアを行う際や迷った際には理念に立ち戻ることができ、日常の中で活かされ浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年はコロナ禍にあり、地域交流が出来ない状況であったが、接触を避けて地域へのドライブを数回出来ている。近隣小学校の友愛訪問も予定がある。	自治会に加入し、地域の行事に関する情報を得ているがコロナ感染症予防のため地域交流が少なくなっている。近隣の小学校で行われた運動会のエイサー演舞の鑑賞を行うことができ、利用者も喜んでいた。なじみの美容室で髪を整える方や近隣へのドライブも継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪者、ご家族から認知症について相談があった時は、認知症についての説明を行い、職場で実践している、対応方法を話している。今後は、全職員が対応できるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二月に一度開催をしているが、コロナ感染状況、蔓延防止等もあり、開催時期が合わず、書面開催をおこなった。今回は、6月に初事業所開催ができた。顔の見える会議は、互いの意見が聞けた。	運営推進会議は年6回、市町村社協会長・区長・宜野座村健康福祉課・入居者家族・入居者が参加メンバーになっており、コロナ感染症蔓延防止のため、書面開催を行っていたが、令和4年6月から対面での運営推進会議を開催し、意見交換を行うことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域を知る事が出来るよう、包括健康福祉課へ出向き情報交換、書類提出等に、対応で困った時は、相談をして助言を頂いている。	健康福祉課へ電話やFAX、直接役場へ出向き、地域の情報収集を行っている。役場からは、宜野座道の駅文化祭りの案内等があるが、コロナ禍のため、参加ができていない。以前は交流や買い物を行っていた。健康福祉課より、事業所がコロナ感染症の蔓延になった際には冷風機を持ってきてくれる等の支援があった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、現状に合わせ必要な書類を作成し、勉強会を行い身体拘束をしないケアに努めている。	身体的拘束等の適正化のための指針・マニュアルの整備が確認できた。また3ヶ月に一度の身体拘束適正化の検討委員会の実施記録が整備されている 身体拘束をしないケアの勉強会や外部研修に参加し、日頃のケアを振り返り、利用者への支援が身体拘束になっていないかの検証等を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	馴れ合いになった環境で、不適切な言葉が出た時は、職員間で注意をして、訂正して言い直せる様にして、都度の虐待に繋がる行為か？を考える力も付けていきたい。	虐待防止マニュアルが整備されており、勉強会での読み合わせや日頃のケアの中から職員間にて注意しあい虐待防止の徹底に努めている。又、事業所職員は勉強会や研修等にて学んだことを共有しながら、知識や理解を深めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できる様、包括 社協職員と情報共有できるようにしてる。今回は該当がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用いて読み合わせをして、解りやすくかみ砕き、理解が出来ているか確認を取りながら説明を行っている。個人情報の利用に写真掲載の有無も、注意深く説明してる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、ご家族の要望、不満がなどこちら側から、声掛けをして引き出すようにしている。要望 労いの言葉があった時は、職員で情報共有している。	利用者や家族等の意見反映は、利用者の体調面の変化や特記事項があった際に家族へ連絡し本人の不安軽減につなげている。家族とは連絡ツールのLINE登録をし、連絡が取りやすいよう対応を行っている。外出したいや散歩へ行きたいの希望は個別でのドライブや近隣の散歩を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から職員採用人数について相談があった時は、都度会社と相談を行い、対応出来る様になっている。	職員からの要望や職員の増員、物品購入等は日頃から管理者や社長自らが話しかけるなど、職員と話しやすい環境を作ろうと心がけている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員健康診断、希望の休みや年休が取れる様、勤務調整を行っている。日々職員へも、勉強会への参加も促し、職員評価も会社へ伝え、給与へ反映できるようにしている。今後自己評価も出来ればと考える。	就業環境では職員の休みをできる限り希望に沿えるような対応を心掛けている。資格取得のための講座への参加、昇給の相談、費用の負担も行い、更に外部への勉強会参加等にも力を入れ、やりがいや働きやすい就業環境の整備に努めている。	ハラスメントに関する研修、就業規則への記載がなく、早急な準備が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な知識に着目して、勉強内容も職員からの提案も聞き出して、研修会へ参加出来る様になりたい。資格取得が出来る様勤務調整し、1名実務者研修終了ができた。今後更に介護福祉士取得に支援したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会へ加盟している。必要なアドバイスを、電話連絡し対応を行い、関係構築に努めている。近隣のグループホームの運営推進会議等へ職員共に参加できればと考える。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネ、入院先の相談員、家族、本人と面談を行い、何に困りどのような生活を望むかを確認して、グループホームは、自宅同様の生活を継続出来る事を説明している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅生活が継続できない困りごとの内容を数回面談して、ホーム内の利用者様の日々の生活が、自宅に近い環境である事を、ホーム内見学して説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知低下の状態を家族から聞いて、対応に苦慮している部分を聞き出して、在宅サービス、グループホームでのサービスを説明して、選択できる様説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員へ利用者様のグループホームでの役割、本人の出来る事を観察する力を身につける声かけをしている。家事の手伝いなどは、本人と相談しながら依頼している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、毎月個人だよりを交付して、生活状況の情報提供をしている。常に家族が出来る支援を相談して、疎遠にならない関係構築に努めている。コロナ感染状況が低迷中は、玄関先での面会も支援している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり、交流が難しい中、馴染みの美容室へ出かける機会を持数回持つことが出来たが、全員ではなかった為、今後は、計画していた道の駅などへの、おやつのお買い物が出来ばと考える。	コロナ禍での馴染みの人や場との関係継続支援について、知り合いや友達が事業所へ来所し、継続して窓越しに交流を行うことができています。終末期の利用者については本土から家族が駆けつけ、民謡が好きだったこともありカンカラサンシンを家族が演奏し、本人と家族にとっても記憶に残る支援が行えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出身区の紹介をして、共通の話題を仲介して過ごせる様に対応している。長い間共に過ごす中で、体調を気遣う思いやりも生まれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、家族へ近況の状況確認の電話連絡をし、入院先から転院先が決まるまで施設情報提供して対応をした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン変更時に、本人の意向を聞き出し、職員へ周知し朝の申し送りでの情報収集が良くなったことで、本人の望む生活が、更に把握できる事で、帰宅要求が軽減傾向に有る	基本的にケアプラン作成・変更時に一人一人の意向を確認し、聞き出せない方については表情や動作、行動又は家族と話をしながら意向の把握を行っている。又、アセスメントや個別記録に、利用者のやりたい事や意向が記載され、日々の会話のなかで利用者の好きなことや好きな活動の把握に努め、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人 ご家族 担当ケアマネ 医療機関などから、情報提供を受け把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック 介護記録 個人記録等を確認、申し送り等で情報収集し、本人へモニタリングを行い現状把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人 ご家族の意向等、職員間で共有して、課題についてカンファレンス 評価を行い、介護計画書を作成している。	介護計画は職員の支援の意向だけでなく、利用者と家族の意見を尊重しながらプランを立てるように心がけている。毎月モニタリングを行い、半年に1回計画の見直しのため担当者会議を開催している。 作成後は情報共有のため事業所内へ掲示を行い、個々の生活課題を踏まえサービスを提供できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙を見直し、計画に沿った記録が出来る様努力が出来ている。職員は特記の記録に困った時は、介護計画書を見る努力、必要なら見直し出来る旨も伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具事業所へ、歩行状態、履物などの情報提供を行い、購入に繋げ、都度必要は相談を行い対応している。コロナクラスター時には、応援なナースにより、対応が出来たと同時に、ケアについての見直しもできた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握する事で、職員と共に外出でき、地域交流出来る事で、ご本人の生きがいも見いだせる考える。職員と共に、月1回の外出に努めたい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も希望する医療機関を継続受診をしている。家族の負担等や状態の変化に伴い、訪問診療等へ繋げたことで、コロナ感染時は適切な処置ができた。	入居前に受診していたかかりつけ医を継続している利用者は3名、訪問診療に切替えた利用者は4名である。2名は、近隣の病院へ変更した。受診については、家族で対応している。受診時の情報提供等、家族と情報を共有することにより適切な医療に繋がる支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りを主体に、体調、皮膚状態 食事摂取等の変化がある時は、看護、介護情報共有が出来、看護は、即座に医療と情報交換をして対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、地域連携室の相談員、主治医へ、看護へ情報提供し、病状や治療方針、入院期間などの把握に努め、受け入れ可能の判断も早期に伝えている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食思低下 バイタルサイン等の状態変化時、都度治療方針、終末期の意向の確認を、主治医を含め相談している。	看取りに向けた指針には、事業所の考え方・意思確認・家族連携支援・援助方法・振り返りが示されている。民謡が好きな利用者の終末期には、ベッドサイドで事業所にあるカンカラサンシンを演奏した。家族との振り返りでは、穏やかないい見送りができたとの感想を得た。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはある。事故対策方法を作成し、読み合わせの勉強会を実施した。	急変時等緊急対応に関するマニュアル・フローチャートが作成されている。フローチャートはラミネートされリビングに常置されている。夜間時の対応については、勉強会を開催しマニュアルの読み合わせや応急対応や初期対応の訓練も実施している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2日の避難訓練を実施、隣接する事業所の職員も訓練に参加している・緊急通報装置の取り扱いの再確認を行った。感染対策の委員会はあるが、研修、訓練は未実施である。	夜間想定訓練については実施済で、昼間対応訓練については、予定した日程がコロナ感染対策のため延期となり3月までの実施を予定している。訓練に際しては、訓練後の課題分析・評価を実施し次回の訓練に活用する体制を整備している。備蓄については、専用コンテナに保管し職員間で周知している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同性介助でなければならない方は、排泄、入浴等同性介助を支援している。言葉について、スピーチロックの勉強会を行い、尊厳ある声掛け等を意識し、尊厳ある対応に努めている。	日常的な介護における利用者一人一人の人格を尊重した対応について、外部研修等で学んだことを内部での研修・勉強会で伝達し、スピーチロック等の学びを深めている。プライバシーの保護について排泄や入浴時の介護の際には同性介助を基本とし、誘導の声掛けへの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日に過ごし方、やりたい事等、聞き取りながら、出来る限り自己決定出来る様声かけを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせ 食事 起床 就寝、入浴等を、本人のペースに合わせてられるよう、努めているが、夕食時間等の検討は、必要であると新規職員からの意見があり、今後検討業務見直しも話し合う予定である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のミーニングケア時に、櫛を持たせて鏡を越しの整髪を支援している。好きな衣類、似合う衣類を褒めて、衣類を選べるようおしゃれへの意欲を引き出している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の前に、利用者様へ食べたい物を聞き取りをして希望に沿うよう努めている。目メニューノートを確認し職員は、重ならないように考慮している。行事食は、幕の内風、バイキング風にアレンジをして提供。	食事については、3食職員が手作りで提供している。メニューに基づいて週に3回買い物を行っている。メニュー作成の際には、利用者の希望を聞き取り反映できるように配慮している。メニューノートに記載し、メニューが重ならないように工夫している。行事食等は、バイキング形式を取り入れるなど利用者が食事を楽しめる環境を整備している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量 器等個々に合わせている。食事量水分量の記録を確認して、好みの物、甘いものと飲み物アレンジもして対応。食事摂取の少ない方は、栄養補助食品も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを、個々に合わせて自己磨き、ガーゼ拭き取り スポンジブラシ等で支援している。夜間は、洗浄液につけ置きをして預かっている。口腔ケアへの意識に、職員にばらつきがあり、都度の声かけを行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを確認する力を職員へつたて、声かけ、定期的誘導、パット交換等を支援。自己にてトイレへ向かわれる方へ、排泄後の汚染状態の確認し、状況に応じて、洗浄 交換等を支援。排泄記録表示も、検討が必要と考える	利用者個々の排泄形態を共有し、夜間のポータブルトイレの利用者、トイレ誘導のタイミング・方法等、個々の状況に応じた支援を行っている。排泄記録についてより効果的な方法を検討中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善が出来る様、水分 食事量の把握に努め、腸内環境を整える、ヨーグルト バナナも取り入れている。腹部マッサージ等も支援。主治医状態を報告して、内服調整している		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴日を決めている。希望に応じて、いつでも入浴が出来る様、時間 日時変更も対応している。座位保持困難や体力衰退の利用者様は、ご家族へ状態報告行い、週2入浴 1回全身清拭へ変更した。	入浴について基本的な曜日・時間の設定をしているが、柔軟に希望に応じた対応が可能な体制を整備している。入浴拒否のある利用者については、「お風呂にいつ入りたいか」というような選択できるような声掛けを工夫し対応を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を、申し送り等で確認して、本人に確認したうえで、日中いつでも横に馴れるにしている。寝具等も、本人の好みを家族に依頼して持参していただいている。居室で過ごす時間の多い方は、ラジオや好きな民謡を流している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を整理し、変更時には、看護から介護職へ伝達し情報共有している。副作用症状が気になる時は、職員間で話し合い、主治医、ご家族へ報告し適切な服薬が出来るよう支援している。	服薬支援についてマニュアルに基づいたフローチャートが作成されている。フローチャートはリビングに備え付けられ、職員は日常的に確認できる環境を整備している。利用者個々の服薬情報については、ファイリングされ変更時には更新し、職員間で共有し支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、トレー拭き 野菜のつくろい等、役割が持てる様依頼している。好きなカラオケ、DVD 三味線などを提供。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、外出が少なかった。お盆に自宅へ外出、外泊希望あったが出来ない為、エイサーを見たいと希望があり、隣の町へ出かけた。お盆の三日間出かけた。	普通車の公用車を活用し、職員と利用者1対2、2対2、1対1など、状況に応じてドライブを行っている。外出先は利用者の希望に応じて、ビーチやファストフード、エイサー見学などを実施した。コロナ禍で利用者や職員の状況に応じた柔軟な対応を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いをもち、好きなジュースを自販機で購入したり、マクドナルドへ出かける等している。定期受診時は、自己にて支払いをする方もいる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話したいと希望ある時は、いつでも通話を支援している。通話できない方でも、耳元へ受話器を持っていき、声かけを依頼している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	綺麗な花がある時は、食卓テーブルへ飾る事もある。陽射しに強い時は、カーテンなどを使用している。旧暦は、利用者様交替で、火の神へ健康祈願をしていただいている。	プレイルーム・サンルームがあり、室内で日光浴が楽しめる。夏場はサンルームでかき氷を楽しんだり、歌会を企画し実施した。車いすや外出の難しい利用者は、可能な範囲でサンルームで過ごす時間を提供し外気や他の利用者と触れ合う時間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる窓際へ移動して、朝の日光浴を支援したり、テレビなどの音量を調整している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具 枕を持参して頂いたり、家族写真等を貼って、自宅に近い環境に配慮している。	居室内には、クーラー、ベッド、作り付けのタンスが設置されている。全居室ベランダに面しており風通しのよいつくりとなっている。入居時には、家庭で使用していた家具や寝具などを持参してもらったり、家族の写真を飾るなど、居心地のいい居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの前に、カーテンを下げ、自分の部屋の確認が出来る様、写真を添付している。ポータブル使用者も、本人の希望の位置へ設置するなど、安全に使用できる工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		ハラスメントに関する研修、就業規則への記載がなく、早急な準備が望まれる。	就業規則へハラスメント(セクシャルハラスメント・パワーハラスメント・マタニティハラスメント)項目別に記載する。ハラスメントについての研修を開催する	令和4年5月13日 沖縄県労働基準監督署へ(セクシャルハラスメント・パワーハラスメント・マタニティハラスメント)記載の新たな就業規則提出済。初年度に研修予定①ハラスメントとは②項目別のハラスメント禁止・防止等	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。